



ロータリー：  
変化をもたらす

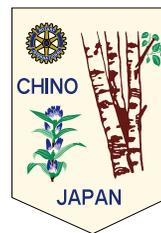
2017～2018年度国際ロータリーテーマ

# ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

Rotary



# CHINO



茅野ロータリークラブ活動指針

「ロータリーの奉仕の進化と深化を楽しもう」

茅野ロータリークラブ

創立1981. 1. 26

2017 - 2018 会長 高見 恭司 幹事 勅使川原 一幸

Vol.30 1736 2018.3.28

## 高見会長挨拶

皆さんこんにちは

今日の私のロータリーの話は、13年前に亡くなられた、クロネコヤマトの宅急便を創ったヤマト運輸の元会長小倉昌男さんのお話です。当時、小倉会長は、銀座RCの会員であり、私と小倉会長との付き合いは、もう20年前になりますが、青年会議所時代に企業訪問をお願いし、宅急便開発の苦勞話を聞きにいったのが始まりです。



当時の話の内容は、ヤマト運輸はもともと関東を中心としたトラック運送をしながら、三越デパートの配送の下請けもしていましたが、そういう仕事を全部やめて、宅急便という今までどこにもなかったサービスが日本には絶対必要だと信じ、「そんな事業うまくいくはずがない」と社員全員が反対するのを押し切ってクロネコヤマトの宅急便を始めました。1976年サービス開始の初日の取り扱い個数は、わずか11個だったそうですが、現在は年間20億個以上を取り扱い、私たちの生活に欠かせない、なくてはならない仕組みになったと熱く話してくれました。

私がロータリーに入会した報告をした時は、「ロータリーも一生懸命やれ」と言われ、クロネコヤマトの創業時のスローガンについて話してくれました。小倉会長が宅急便事業を始めるにあたり、ロータリーの精神を用いて、掲げたスローガンが、「サービスが先、利益は後」このスローガンをセールス・ドライバーに言い続けました。小倉会長が言い続けた「サービスが先、利益は後」というのは、「サービス」と「利益」の関係を理解しない人からは「きれいごと」と世間から、批判されましたが、このスローガンで一貫性を持ってやり続けた結果、きれいごとでクロネコヤマトは成長したわけではなく、今までどこにもなかったサービス、生活になくてはならないサービスとして世の中から認められたから、クロネコヤマトの成長に繋がったと話してくれました。

私たちロータリアンには「サービスが先、利益は後」という言葉はすぐに理解できます。日本のロータリーの創始者米山梅吉さんも、ロータリーモットーは「サービス第一、自分自身は第二」また「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」とも言われており、小倉会長の「サービスが先、利益は後」という言葉は、この二つを凝縮した言葉のように私には感じられ、最後までロータリアンに誇りを持ち、ロータリーが好きであった小倉会長らしい言い回しで、あったかと、思います。

以上で会長挨拶と致します。ご清聴ありがとうございました。

## ※別紙幹事報告書

### ニコニコBOX

人数  
30人  
金額  
58,000円

- ◎高見恭司会長 今井県議卓話よろしくお願ひします。
- ◎長崎寛文会員 娘が看護学校卒業、看護師試験合格しました、合わせて入籍しました。
- ◎五味光亮会員 誕生日3月31日です。
- ◎北澤平吉会員 誕生日忘れてました。
- ◎五味徳雄会員 PETS 勉強しました、来年よろしくお願ひします。
- ◎村村一男会員 RLI 無事卒業しました。1年間がんばりました皆さん褒めてください。
- ◎牛山武明会員 お花を頂きました。

## 卓話

長野県議会議員 今井 敦 様



県議になって12年目になります。ベテランの割には年齢的には若いほうで、年長者の扱いに苦勞することもあります。議会調整委員会等での長年の付き合いの結果、他党との関係は上手くいっています。県職員との関係でも、10年以上の付き合いの中で、1期目係長だった人も課長部長となり、話が通しやすくなっています。議会の仕事は基本的には、国からおいてくるお金の使い方を決めることと、地方の要望を国にあげることで、議会開催の間の期間が重要です。地域の要望を聞くため現地を訪問したり、ヒアリングしたり、本庁に伝えたり、案件が長期にわたることが多く、やってる最中は他言出来ません。湯川バイパスに関しては、初めに3案から1案に地元をまとめ、諏訪建設事務所に申請、本庁部長をへて県庁へ、私の2期目から事業化が始まり、現在3ヶ所完成、10年にかかる事業です。

前議会は2月16日から3月16日まで開かれていましたが、予算を決める議会で総予算8500億円前後で、予算編成では信濃美術館100億、県立武道館57億、リニア関連200億で、松本、諏訪地区には予算は回りませんでした。5ヶ年計画は「学びと自治」となりましたが、茅野市の「パートナーシップとまちづくり」と近い考えです。これらを関連させてどう具体化するかが課題です。例えば諏訪湖研究センター設立なども候補に上がりますが、地元の誠意がもう一つです。諏訪湖、八ヶ岳周辺全地域にわたっての全体的構想が必要ですが、茅野市DMO単独では無理で、他市町村、北杜市などの他県を巻き込んだ総合的なアプローチが必要です。

これから茅野市はDMOをしっかりとやる必要性、公立化した理科大を多方面の分野で長野県にとって良い大学に育てていく必要があると思います。



## 出席報告

会員数 55名  
出席 42名  
出席率 76%